

すいた みなみ しょうがっこう
吹田南小学校だより 平成28年
(2016年)
11月30日
—全国学力学習調査結果報告—

—平成28（2016）年度

全国学力学習状況調査結果報告—

去る4月19日に行われました全国学力学習調査の結果について報告させていただきます。

1. 全国学力学習調査結果報告とは

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために国（文部科学省）が行っているものです。学校においては児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目標に、小学校では6年生を対象に実施されているものです。

2. 調査内容

小学校においては国語科、算数科に関する調査で、主として「知識」に関する問題（A問題）と主として「活用」に関する問題（B問題）、児童の生活習慣や学校環境に関する質問紙調査を実施しました。

3. 結果についての考え方

調査については同一問題かつ全国規模で行われたものですので、学校における学力の定量的尺度の1つとして学力傾向を知るための手立てとなるものと考えます。しかしながら、調査は6年生のみを対象としたものであり、教科も国語と算数に限られていることから、測定されたものは全ての学力を網羅したものではなく、正答率だけをもって順位、序列等を考えることは調査の趣旨にそぐわないものと考えます。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいを達成するものと考えます。

4. 調査結果の分析

（1）全体傾向

算数Aは全国値とほぼ同じ値で、算数Bは全国値をやや下回る値でした。国語については国語Aは全国値を下回り、国語Bは全国値をやや下回る値でした。

（2）算数

<A 主として知識を問う問題>

平均正答率は、全国値とほぼ同じでした。小問題16問で構成される大問題9問で出題されました。小数の割り算や引き算の正答率は全国値をやや下回るものの、小数の足し算は全国値を上回り、分数、大小は、全国値をやや上回っています。「数と計算」の領域においては、ほぼ理解できていることが伺えましたが「数量関係」の領域においては、割合や百分率で表す問題は全国値を下回り、単位当たりの量においては、正答率が全国値をやや下回る結果でした。また、無答率（解答無記入）も高い結果となりました。

<B 主として活用を問う問題>

平均正答率は、全国値をやや下回る結果でした。選択式や短答式の問題においては、全国をやや上回る正答率でしたが、記述式問題において全国値を下回る正答率で、学習の中で説明を書いたり、理由を書いたりする力が弱いことがうかがえました。

<算数における課題点>

本校では、少人数習熟度別授業形式を基本としており、この授業形態が一定の成果をあげているものと思われます。また、昨年度より、月1回程度「学力保障の日」をもうけ、従来の「夏休み・朝・全校チャレンジ」に加えて苦手な児童の課題克服に向けた取り組みも進め「学力の底上げ」にも取り組んできました。A問題に出題される基礎基本については、低学年からの積み重ねにより力がついてくるものですので、1時間の授業を大切にし、理解できないまま次の学習に向かうことがないようにする必要があります。また、自分の解き方や考え方を伝え合うような活動を今後も取り組んでいく必要があります。単元については「割合」「単位あたりの量」などでは系統性を考慮し、指導方法を工夫する必要があります。

（3）国語

<A 主として知識を問う問題>

小問題15問で構成する大問題8問で出題されました。漢字の「読み」「書き」では全国値を上回る値の項目もあったものの、「読み取ること」「書いて表現すること」は全国値をやや下回り、「言語についての知識・理解・技能」を問う領域については全国値を下回っています。

<B 主として活用を問う問題>

小問題10問で構成する大問題3問で出題されました。目的に応じて質問したいことを整理する問題や、質問の意図を捉える問題では、全国値とほぼ同じ正答率でしたが、記述式（答えを文章で書く）の問題になると無回答率が高くなっています。特にメモをもとに話の展開を書くといったことが難しかったようです。

＜国語における課題点＞

漢字の読み書きのような繰り返し練習するものの力は一定ついているものの、言語については、意図を把握しながら様々な文章を読んだり書いたりすることを指導し、意図に応じて書くことができるように授業で取り組むことが必要であると考えます。また、メモを取ったりパンフレットを作ったりと実生活の中で国語力をどう生かすかというところに課題があることがわかりました。国語科に限らずあらゆる教科の授業場面で言語活動を取り入れる必要があると考えられます。

（４）生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向（児童質問紙の結果）

〔国語に対する意識〕

国語の学習が好きとした児童は全国値を下回り、「授業内容がよくわかる」とする児童も全国値を下回りましたが、８割を超える児童が「国語は大切な勉強である」「将来、社会に出たときには役に立つ」と考えています。また、読書が好きな児童も全国値とほぼ同じでした。

〔算数に対する意識〕

一方、算数が好きと答えた児童は全国値をやや上回り、授業がよく分かると答えた児童は全国値を上回りました。また、算数は大切な勉強であるとする児童も、社会に出たときに役に立つと考える児童も８割を超えています。しかし、訳や求め方を問われる問題で「途中であきらめずに解く」とした児童は、全国値を下回る値で、いろいろな方法を考えることなく、あきらめてしまう傾向がみられました。

〔学校生活について〕

「学校に行くのが楽しい」と答える児童は全国値を下回りました。「友達と会うのが楽しい」と答えた児童と「友達との約束は守る」と答えた児童は全国値とほぼ同じでした。しかし、「学校の決まりを守っている」と答えた児童の割合が全国値を下回っていることが気になりました。

〔生活の様子〕

朝食はほとんどの児童が食べていて、全国値とほぼ同じでした。起床時刻も規則正しいものの、決まった時刻に就寝する児童は全国値を下回りました。また、テレビやゲームに費やす時間が２時間未満の児童は全国を下回り、学校の出来事を家で話す子も全国値を下回るなど、家の人とのコミュニケーションが不足しがちな様子もみられました。一方、自分には良いところがあるとした児童や、将来の夢や目標を持っている児童の割合は全国値とほぼ同じでした。

〔家庭学習について〕

ほぼ全員の児童が家で宿題をしていると答えていましたが、予習・復習とも「している」

と答えた子は全国値を下回りました。また、家庭での自学自習に教科書を使う児童や計画を立てて勉強をしている児童は全国値を下回りました。

（５）今後の取り組みについて

■ 学校が取組んでいくこと

今回の学力調査において、算数では記述問題での無答率の高さや分からないところをとことん追求する姿勢の弱いという課題や、自分の考え方を説明したり、話し合ったりという活動が不足しているという課題が明らかになっています。これらについては、各教科で自力解決（個々が様々な解法を考える）→ペア学習（考え方を説明する、説明を聞いて理解する）→全体交流（多様な考え方に触れることで思考を広げる）というような学習の流れを定着させることで、問題に粘り強く向き合い、思考を深める姿勢を引き出していきたいと考えます。また、実生活に即した言語活動が課題であることが明らかになっていることから、国語科をはじめとしたあらゆる授業場面で、ただ正解か不正解かだけではなく、「なぜそう考えたのか」「同じところはどこか」「違うところはどこか」など、自分の考えを説明したり、話し合ったりする活動を取り入れ、授業改善につなげていくことが大切と考えています。

そして前学年の学習で理解しきれていない部分がある児童については、引き続き学力保障のシステムを活用しながら、個々の課題に向き合わせていきたいと考えます。

■ ご家庭で取組んでいただきたいこと

今回の調査からも学習する方法を習得することが児童にとって大切なことであることが分かります。本校でも、昨年度から家庭学習の取り組みを始めています。宿題だけではなく予習・復習の習慣を身につけることも大幅な学力アップにつながりますのでご家庭での協力をお願いいたします。

児童アンケートからは、子どもたちの生活像が見えてきますが、携帯電話や就寝時刻の課題は、毎年同じような傾向が見られます。特にスマホ等でのSNS利用については家族で相談し、ルールを決める必要があります。時間をネットに費やすより、家族で話をする時間を多くとりたいものです。ご家庭の方でも、この調査結果をもとに振り返り、話し合っただけでしたらと思います。

吹田市教育委員会でも「平成28年度全国学力・学習状況調査結果の概要」を吹田市ホームページを通じて発表しております。ぜひご覧ください。

[吹田市トップページ](#)→[部課組織一覧](#)→[学校教育部](#)→[指導室](#)→[メニュー](#)